



## 子どもを育てる目（2）

・・・希望を持つ心を育てる目・・・

大人は子どもの願いをかなえてやりたいと思うのですが、そうはならないことがあります。子どものうちは、願いはかなうものと思わせてやりたいと大人は考えます。しかし、人は赤ちゃんの時から欲求がかなって満足する一方で、思い通りにならないことも学習しています。小学校でも思い通りにならないことはあります。それをどう受け止めるかによって、子どもの育ちが大きく左右するのではないかと思います。

今日の三時間目の音楽で、がっきぎめをしました。

ぼくがなりたかったがっきは、大太こでした。でも、ぼくがなりたかった大太こにはなれませんでした。なぜなら、じゃんけんが音楽の先生にまけたからです。音楽の先生に、「空いているところにいれてください。」

といました。そして、ぼくは、すずになりました。

なりたいたものでなかったけれど、ぜん力でがんばり、うまくできるようにがんばろうと思います。ファイト。

2年生の日記

思い通りにならなかったのですが、新しいことにチャレンジしたいと、子どもは考えています。では、どうしてこのような受け止め方ができるのでしょうか？日記に寄せられたお母さんのことばが、子どもの育ちになっています。

「なにごともしん力でする大せつさを思ってくれてうれしいです。

それが、たとえ、自分の一番やりたかったことでなくても、ぜん力で考え、ぜん力でれんしゅうすれば、かっこよい、すてきなえんそうになり、そのがっきでよかったと思えるはずですよ。たのしみですね。」

思い通りにならないことを運が悪いと受け止めて、不満にしてはなりません。思い通りにならないことは不幸ではありません。子どもをいちばん不幸にするいちばん確実な方法は、大人がいつでも何でも手に入れられるようにしてやることです。思い通りと幸せは別です。幸せは自分でつかむものです。

お母さんのことばは、子どもが考えたことを価値づけ、全力で考えて行動すればこの楽器でよかったと思えるよと、子どもの選んだ道を明るく照らすものです。思い通りにならないことでも希望を持つ心を育てる目が大事です。